

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第25週（6月20日～6月26日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 増加続く」

第25週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,697例であり、前週比5.7%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ5.60、1.35、0.70、0.39、0.30である。

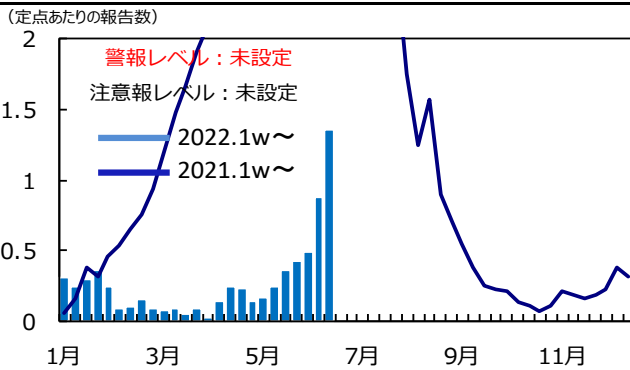
感染性胃腸炎は前週比13%減の1,097例で、南河内8.94、三島8.24、中河内6.65、泉州5.95、北河内5.48であった。

RSウイルス感染症は53%増の265例で、大阪市北部3.71、豊能2.43、中河内・大阪市西部1.70である。

咽頭結膜熱は14%減の138例で、大阪市南部1.44、北河内0.84、三島0.76であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は21%減の76例で、中河内1.50、大阪市北部0.57、三島0.41である。

RSウイルス感染症



感染性胃腸炎

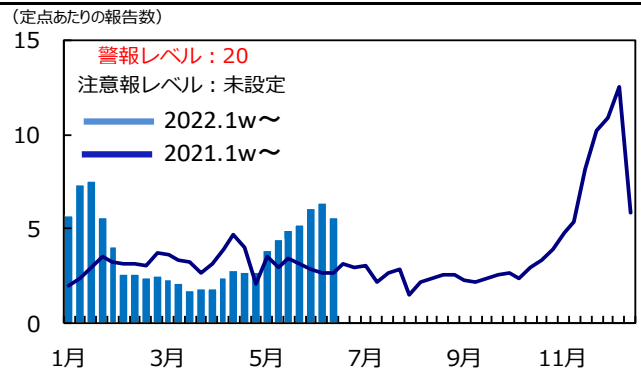


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第25週6月20日～6月26日）

第25週の順位	第24週の順位	感染症	2022年 第25週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第25週の 定点あたり 報告数	2022年第25週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	5.60	13%減	2.65	1歳_20%
2	2	RSウイルス感染症	1.35	53%増	3.34	1歳_26%
3	3	咽頭結膜熱	0.70	14%減	0.44	1歳_43%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	21%減	0.63	5歳_22%
5	5	突発性発しん	0.30	0%増	0.44	1歳_59%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021/22年シーズンのインフルエンザ集計は第12週で終了しました。

第25週のコメント

～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は、年間報告数が過去最高であった2018年の同時期より多くなっている。

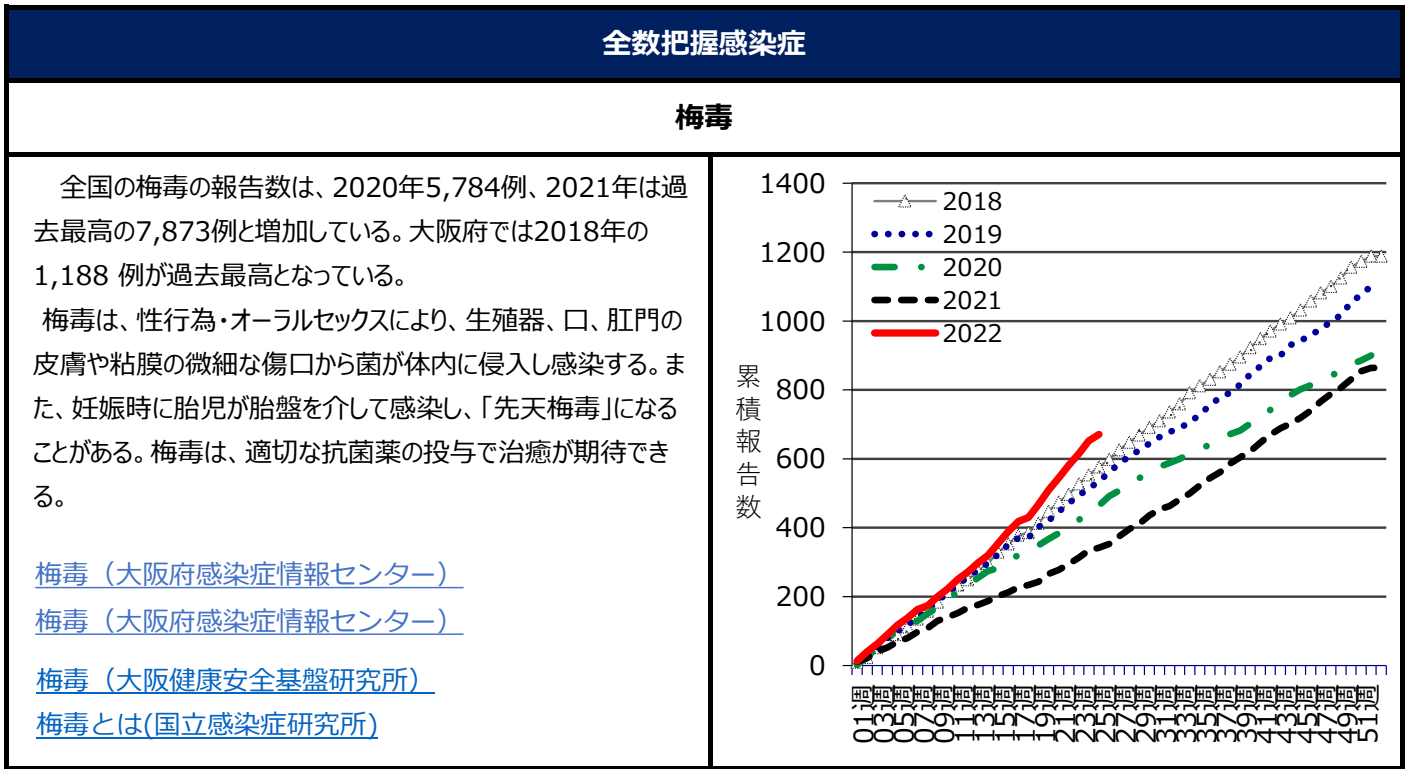


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第25週6月20日～6月26日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村別							府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		大阪市
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2						1		1	42
4類感染症	レジオネラ症（ポンティアック熱型）	1								1	33
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2						1		1	47
	後天性免疫不全症候群	2						1		1	46
	梅毒	19	2	2	3	1	1			10	671
	百日咳	1				1					18
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	8,535	2020年1月以降累計							1,006,882	
結核 (2022年4月分)	結核 新登録患者数：76名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 21名) (府内累積報告数 313名、内 肺・喀痰塗抹陽性 111名)										

(2022年6月28日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。](#)